

歴女がゆく

国宝

観心寺金堂

南北朝時代建立

発見！私のイチ押しパワースポット VOL.

1

今月からの「歴女がゆく」は6回シリーズで
市内の文化財建造物の紹介を行います。

金堂は中世を代表する建造物の1つです。教科書でも時々見ますね。

寺社建築には、平安時代に日本で発達した和様、鎌倉時代に中国から新たに伝わってきた禅宗様、大仏様、これらを融合させた折衷様などの建築様式があります。観心寺金堂は、和様を基調としながらも、細部に禅宗様や大仏様を取り入れた、折衷様を代表する建築物として広く知られています。本建物は、南北朝時代に造られたものであり、その姿は、戦国時代の観心寺の様子を描いたと考えられる「観心寺境内図」や、江戸時代の「河内名所図会」にも描かれており、古くから注目を集めてきたことがわかります。なお、観心寺では、4月17・18日に金堂に安置されている国宝の如意輪観音坐像のご開帳がありますので併せてご覧ください（29ページ参照）。

ココが見どころ ZOOM UP! +

建築様式の絶妙ミックス

窓のデザインや屋根を支える垂木が平行に設置されている※のは和様の要素。一方で柱同士を繋いでいる横方向の部材が柱を貫通している点や木鼻のデザインは禅宗様である。

※禅宗様では、中心から放射状に垂木が設置される。

自分の干支から本命星を確認！自分の星塚は念を入れてお祈り...

星塚は弘法大師が厄除けのためにお祀りしたもの。7つの塚を一巡するとその年の厄が払われるそうです。

今月の歴女

西村慈子さん

関西花の寺に選ばれている観心寺さん。4月は桜がとってもキレイです。お参りするもよし、レクリエーションするもよし、気軽な気持ちで近所の寺社に足を運んでみませんか。



河内長野駅から南海バスに乗り、「観心寺」バス停下車 ▶ 午前9時～午後5時 ▶ 入山料 大人300円、小中学生100円
※4月17・18日は700円(入山料込み)

文化財トリビア ① 大量に発見された渡来銭

昭和50年頃、観心寺の敷地内から、中国の唐から明の時代にかけての銅銭34,750枚(重さ123^キ。2^リ)が発見されました。これは、中世の日本では、中国から大量の銅銭を輸入・流通させていたこと、そして、観心寺の寺領における経済活動が盛んであったことによると考えられます。なお、くろまろ館では観心寺出土の銅銭を常設展示しています。

